

00	09	03	002	永年保存	起案	令和4年12月23日	決裁	令和	年	月	日
議長 副議長 事務局長 副主幹 係長 主査 担当										文書取扱主任	

第3回 滝川市総合計画調査等特別委員会 会議録

開催年月日		令和4年11月2日（水曜日）		開会：9時55分		閉会：11時24分		
開催場所		第二・第三委員会室						
出席委員		山口、寄谷、三上、山本、佐々木、安樂、荒木、東元				事務局	深村事務局長	
		議長、副議長					壽崎副主幹	
欠席委員		なし					高橋係長	
説明員		別紙のとおり					山本主査	
議件		別紙のとおり				吉田主事		
議 事 の 概 要	1 所管からの報告事項について							
	次の事項について所管から説明を受け、質疑を行い、報告済みとした。							
	(1) 滝川市総合計画（原案）について							
	2 その他について							
	副議長から今後の進め方についての質疑があり、委員長から説明があった。							
	3 次回委員会の日程について							
	次回委員会は、正副委員長に一任することとした。							
	上 記 記 載 の と お り 相 違 い ない。							
	滝川市総合計画調査等特別委員長 山 口 清 悦 ㊞							

第3回 滝川市総合計画調査等特別委員会

R4.11.2（水）10：00～

第二・第三委員会室

開 会 9：55

委員長 ただいまより第3回滝川市総合計画調査等特別委員会を開会いたします。

委員動静報告

委員長 委員動静ですが、委員は全員出席です。議長、副議長に出席をいただいております。木下議員に傍聴の許可をしております。

1 所管からの報告事項について

委員長 それでは、所管からの報告事項について、(1)、滝川市総合計画（原案）についてに入りたいと思います。

(1) 滝川市総合計画（原案）について

委員長 今回の委員会では、先日お配りしております滝川市総合計画（原案）の基本目標の3番目、元気な産業と活力あるまちと4番目、機能的な生活基盤の充実したまちについて、委員の皆様から意見をいただくことになります。また、10月24日に開催されました第4回市民会議で出された意見については、皆様の自宅に届けておりますので、既に見られたと思います。なお、第4回市民会議の意見について、所管から特に補足の説明はありません。委員の皆さんから早速質疑や意見等を求める方法で進めていきたいと思っています。

それでは、基本目標の3番目、元気な産業と活力あるまちの質疑に入りたいと思います。

質疑ございますか。

山 本 農業の振興に関してですけれども、ここにスマート農業云々、規模拡大により人手不足に対応するためのスマート農業、それと多様な人材の確保ということでいろんな施策の方向が書いてございますけれども、現在滝川市の現状を踏まえた中で、100ヘクタールを超えるような大規模農家が散見されるようになってまいりました。その中で今見えるのは、農業経営の適正規模は何ヘクタールだったのかということをいま一度振り返ってみないと分からない状況が来ている。ある経営体では、経営主のほかに息子さんが長男、次男、三男まで戻ってこられたような経営体が見られます。その経営体の面積を後継者の数で割るとちょうど30ヘクタール前後ぐらいなのかなと思います。その経営体にお聞きしますと、そのくらいでもまだ何とか給料を払っていただけるのだということでございます。そういうことになりますと、滝川市内で急激に規模拡大が進んだ中で、果たして規模拡大がそのまま青天井でいっていいのか危惧されますので、その辺はいま一度振り返って、滝川の今の農業の作物形態の中でどのくらいが適正規模なのかということをいま一度検証すべきではないかということがまず1点であります。

それから、市民意見の中にもありました、国の会議の中ではありますけれども、農業をやる人がいなければ企業参入もいいのではないかというお話もございすけれども、家族経営で爪に火をともしおつもりで農業経営をされてきたのが破綻した。できなくなった農業経営を果たして企業がそのままできるのかな。ちゃんとした平均的な所得が生まれる給料が払えるような法人経営の農業が本当にできるのかな。そこに危惧される面もあります。そういった意味で、府県にはいろんな高収益作物等でうまくいっている経営も多々ございます。いま一

度そんなことも、先進的な事例を滝川市内に持ってこいとは言いませんけれども、もう一度滝川の農業を考える必要があるのかなと思います。なぜこんなことを言うかといいますと、私は江部乙地区なのですけれども、私が営農してから約50年、半世紀たったわけですけれども、そのときから比べると農家戸数が、10分の1とは言いませんけれども、物すごく減りました。当時は約3ヘクタールから5ヘクタールぐらいの平均経営規模があったのですけれども、今は平均が20ヘクタール近くになってきてしまっているということになりますと、黙って5分の1に人が減っている。それに合わせて滝川市、特に江部乙地区の町の衰退というのは、農家戸数が減るとそういうことになってくるということを考えると、中空知も産炭地が駄目になって農業ということになりますと、結果的に滝川もそんなことになってくるとかなと思いますので、その辺ももう一つ検証しながら、滝川の農業のあり方をきっちり展開していく計画であってほしいなと思います。農業に関しての私の考えは取りあえずこれだけですので、よろしくお願いします。

平川課長

いま一度適正な規模が幾らなのかですとか、企業参入、本当にやっていくべきなのかといったお話がございました。この辺につきましては、我々も農政専門ではないので、どうのこうのと言える立場にないので、山本委員ご指摘のあったことについては担当部署とも検討しながら、どういった書きぶりにしていくかというのを検討していきたいと思います。

委員長

山本委員。基本的には23ページの施策の方向というところに書いてあるものに、もっとそれを検討してくれという意見でいいのでしょうか。

山本
委員長
安樂

はい。

ほかに質疑ございますか。

それではまず、農業振興について何点か確認と、それからこの総合計画というのはこれから10年間の滝川市の方向づけで、文言1つにおいてもそこに意思なり魂なり入っていくものだというふうに私は思っています。そういう部分で意見を言わせてもらいます。

まず、質疑ですが、今まで農業については6次産業化というのがずっと言い続けてこられた部分があると思います。今回それが反映されていないような気がするのですが、なかなか難しい問題だから今回は取り入れていないという判断でいいのかというのがまず1つ。

それから次、施策の方向の1番目の丸の中で農業経営の継承や労働力の確保の取組を推進するということですが、この中には地域おこし協力隊とかそういうのも含めたお考えなのかというところの確認。それとあと、今回の施策の方向を見ると、高収益作物とか所得につながる取組をやるというふうになっているのですが、食の安全保障ではないのですけれども、滝川市の自給率の向上とかそういうのはどこかに含まれているのか。それは関係なく、取りあえず所得を上げる方向性でいくのだというのだったらその確認。

次、文言整理なのですけれども、一番下、民間事業者とも連携を図りながら云々とあるのですけれども、その後半、国内外のニーズに対応した農作物の優位販売網の確立という言葉があるのですが、これについての認識としては、ネット販売とか直販とかふるさと納税とか、考えられるものは全てこれに含まれるという認識でいいのか。

次に、一番最後、民間事業者とも連携を図りながらとあるのですが、連携を図

るのは当たり前だと思うのです。元気な農業にするためには、連携強化を図るとか、もうちょっと強い言葉が必要ではないかなと。後半の部分の農作物の優位販売網のところも、販売網だけではなくて広報、PR、ここも必要ではないかなというふうに、あまり細かいことはどうかというのはあるのですが、それをちょっと感じたので、そこのご答弁をお願いします。

熊谷係長

私のほうから、まず6次産業化の関係なのですが、前回の総合計画にも記載をしております、次の計画を作るに当たってどうするかというところも部会のほうでしっかりと議論いたしました。所管からも、6次産業化は取り組んではきたものの、農家が1次から全て、生産をして販売、加工するということとはなかなかうまくいっていないという現状もありまして、販売は販売、加工は加工といった専門的な方がやっていく。その中で農業者とそういった方々が連携して行っていくほうがよりよいものができるのではないかとということで、6次化については今回そういった意味で掲載しないという判断をしたところで

す。

それから、労働力の確保につきましては、現在も募集をしておりますが、地域おこし協力隊などの人材も含まれているという認識であります。

それから、優位販売網につきましては、海外に向けてどのように滝川の農産物を売り込んでいくかといったことも含まれますし、ネット販売をどのようにしていくかといったことも含まれているという考えであります。

それから、食料自給率の話につきましては、先日の市民会議でも意見が出ておりまして、まず滝川の食料自給率、計算方法も含めてですけれども、どのようなものになっているのかということも所管と調整をしまして、向上に向けての考えを盛り込むべきなのかどうかということも検討させていただきたいと思っております。

平川課長

ご指摘のあった件につきましては、今後調整を図っていきたいと思っています。ちなみにPRの面は、農業だけではなくていろんなところで市民意見なんかも出てきておりますので、その辺はここだけということではなくて様々な場面で考えていきたいと思っています。

安 楽

そうなのですけれども、特にPR、農業だけではないというのは十分分かっているのですが、そういうのは活字にしていけないと。次の質疑にも関わってくるのですけれども、漏れが出てくるのではないかなというふうに私は思っています。委員長、続けて元気な産業と活力あるまちは全部言ってしまうていいのですか。今、施策1をやっています。

委 員 長

施策ごとにやります。

安 楽

分かりました。

委 員 長

他に質疑ありますか。

三 上

先ほど山本委員が重要なことを言っていたのですけれども、確かに農業でもうけるには大規模経営がいいと思うのです。ところが、ここには大規模経営されない農家の方々がどうするのかというのが欠落しているのです。先ほど重要なことを言っていて、そういった方々が離農していくと人口が減っていくわけです。あるいは大規模農家になってしまうと米だけというようなことになっていく傾向性があるので、個々の農家の育成という部分は必ず入れていかなくてはいけないと思うのです。

それともう一つ、さっき6次化の話が出ておりましたけれども、6次産業化と

というのは、農家では確かに難しいという話だったのですが、その環境をつくっていくのが農政だと思うのです。だから、前回は載っていたけれども今回は下ろしましたということではなくて、10年先を見据えたときにはそういった部分にもチャレンジしていかないといけないと思うのです。

それともう一つ、地産地消というのが全然出てこないのです。滝川の農産物を滝川市民がどのように消費していくか、その仕掛けづくりをやっていかないと滝川の農産物が日の目を見ないということになると思うので、地産地消という部分、学校給食で盛んに取り入れるだとか、介護施設の食事に使ってもらうだとか、あるいは市民がお米を中心に滝川の農産物を使えるような専用アプリを開発するだとか、そういった取組が10年先の滝川をつくると思うのだよね。そういった部分について見解を伺いたいと思います。

平川課長

大規模営農をされない方の欠落という部分で、私も部会のほうに全部出たわけではないので確認はできないのですが、今回の書きぶりは主に大規模経営のほうに軸足を置いているのは事実です。そういった中で、全てを網羅するような形にするのがいいのか、この辺につきましても検討課題というふうにさせていただきたいと思います。

6次化の部分、環境をつくっていくのが農政でないのかということで、これまでも様々やってきているということもあっての先ほどの説明だと思いますので、盛り込むべきではないかというご指摘なので、今日は承るということにさせていただきたいと思いますし、地産地消はまさに今回部会の中でそういった具体的な声が出てきたので、この辺は考えなければならないなというふうには考えておりました。

委員長
副委員長

他に質疑ございますか。

6次化に関わる部分でもありますが、農業を滝川の基幹産業ということで位置づけているわけなのですが、その場合には農業だけを振興させればいいのかというのではなくて、そこで作ったものを加工したり、製造、生産したり、移動したりとかという、そういうほかの産業の発展にも結びつけていくことが必要ではないかと思います。そこら辺の打ち出しというのがもうちょっと強くあってもいいのではないかと考えたのですが、そういう意味では企業の誘致であるとか、市内の加工場への助成とか、そういうことも視野に入ってくると思われますが、その辺についての計画というか、その辺についてはどう考えているのか伺います。

平川課長

部会の中で6次化の話が出て、今回盛り込まなかったということなので、今副委員長おっしゃられたようなことまでの議論には今の段階では行き着いていなかったということです。

委員長
副議長

他に質疑ございますか。

それでは、1点だけお伺いします。施策の方向の一番上、安定的な地域農業の維持に向けて云々ということいろいろ書いてあるのですが、これはどうするということを言っているのかよく分からないという感じがして、労働力の確保の取組を推進するとは何なのだろうとか、地域農業を牽引する担い手を育成するというのはどうやってするのだろうとか、そういうところまで踏み込む内容でなければ施策の方向とはならないのではないかなというふうに思うのですが、この記述の中には法人化とかそういうことに対するお考えとかは入っていたりはするのでしょうか。

熊谷係長 総合計画ということで包含的な書きぶりにはなっておりますが、法人化ですとか、新規就農者の育成、後継者の育成ですとか、そういったことも含めての記載になっております。

副 議 長 前にも似たような話をしたと思うのですが、この文章の中で、やっぱり分からないわというのではなんなので、何らかの分かりやすいワードを入れていかなければならないというふうなことは強く思うのですけれども、ぜひそういうことにも気を配って文言を整理していただけたらなというふうに思うのですが、いかがでしょうか。

平川課長 今のご指摘につきましても検討させていただきます。

委 員 長 それでは、他に質疑があれば施策2……
(何事か言う声あり)

山 本 もう一つ、先ほどにも関連するのですけれども、滝川の農業をある適正規模で止めたときに、高収益の作物になったときに人手不足ということで、夕張に友達がいるのですが、大都市圏から毎朝マイクロバスでパートの送り迎えをして募集をして、1日2時間でも3時間でもいいから来てもらおうというような体制を組んでいるという実態があります。人手がないとそういう方法も考えられるというのが1つと、大規模化が進んだときに滝川の農業生産額というのは絶対下がっていくわけなのです。滝川の農業生産額の目標を立てて、ここを下回らないためには何を作ってどういう施策をしなければいけないかというのをきっちり立てるべきだと思いますけれども、そういう方向でお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

熊谷係長 まず、人手不足に関わるマイクロバスで移送ですとか、そういった施策の方向にひもづく事業につきましては、所管と調整させていただきたいと思っております。

それから、生産額の目標を設定してはどうかということですが、総合計画を策定した後に実行計画で回していくことになりますが、その際に全て目標を設定するというのは難しいかもしれないので、目標設定をしっかりとした上で、達成状況がどうなっているのかといったようなことをしっかりとローリングしていきたいと考えております。

委 員 長 他に質疑ございますか。

荒 木 確認ですが、原案には文言がないのでいいのですけれども、いただいた資料の一番上の担い手育成の2番目の施策の方向というところに福祉と農業の協力体制と書いてありますが、労働力として協力してもらおうという意味なのか、社会福祉法人の農業参入を促すという意味なのか、仮にこれが原案のほうに文言が載ってくるということになると分かりにくいので、イメージだけ教えてください。

熊谷係長 こちらに関しましては、例えば障がい者の方が農業法人で働く、作業するといったようなイメージをしております。こちらは所管とも調整をした上で、この文言を載せるべきかどうかというところは調整したいと思っております。

委 員 長 他に質疑ございますか。
(なしの声あり)

委 員 長 それでは次、施策2の力強い産業の創出について、質疑ございますか。

安 楽 1回目の説明のときにも私のほうから言ったことですが、施策の方向の丸の3つ目、地元企業の人手不足を解消する観点から、近隣自治体とも連携しながら

というところになります。ここは自治体だけではなくて学校とか教育委員会、進路指導の先生の影響というのは非常に大きくて、学校にはずっと昔から付き合っている一流企業とかそこそこの企業があって、そこを断ったら次から募集が来なくなるとか、就職というのは結構そういうのがあるのです。先生たちをしっかりと取り込んでいかないと地元定着というのは難しいのではないかなというふうに考えていますので、ここには学校なり教育委員会という言葉が入ったほうがいいのではないかなと思いますが、お考えを伺います。

熊谷係長

学校との連携につきましても市民会議で非常に多くの意見が出されておりました。ですので、産業の創出の部分での教育委員会または学校との連携につきましても検討していきたいと考えております。

委員長
三 上

他に質疑ございますか。

若い働き手が地元に残らない。学校とかで企業体験をするだとかそういったことはあるのだと思いますが、ご本人だけでなく親世代の方に地元の企業はこういったところがありますとか、特徴だとかいい点だとか、賃金だけでないよというような部分をアピールできるような環境をつくっていくことも必要なかなと思ったりしております。

それと、施策の方向で競争力を持つ商品の開発、販路拡大、所管はどこがやるのかと思うんです。文言で見ると大層すばらしい目標を掲げているなと思います。所管の中で専従を決めて、これに取り組むという専従者をつけないと一向に進まないと思う。所管がこういう目標を掲げたとしても全然進まない。専従者を置かないと駄目だと思う。そういったことを念頭に今後の計画を進めていただきたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

平川課長

まず1点目、若い人が残らないので、本人だけでなく、その子の親なんかもターゲットにしながらアピールできるような場というお話です。まさしくそういったことはあると思います。私の記憶が定かではないですけども、ここ何年かの間でもそういった取組、本人だけではなく親もターゲットにした形での取組、企業の紹介ですとかそういったことをやったかと認識しております。なので、そういった部分の書きぶりというか、思いを入れるか入れないかということとは検討させていただきます。

それと、確かにおっしゃるとおり、ここでいいことを書いて、実際どうやってやっていくのかといったときに専従者を置くべきではないかというご指摘は、そういった視点でも考えてみたいと思います。

委員長
山 本

他に質疑ございますか。

地元企業の人手不足という部分、学生が地元の企業に就職していただきたいのはやまやまなのですが、その原因は何なのかということをやま一つ振り返ってみる必要があるのかと。1週間に一回ぐらい空知管内の人手が足りませんので来ませんかという募集広告がいっぱい入るのですが、正規職員としての募集が非常に少ない。ほとんどはパートとか臨時だとか、そういう類いの募集しかないような実態であります。若い人がそんなところに来るわけがないので、若い人が勤められるような場所というのは非常に少なくなってきた。そうすると、地元就職したくてもできないというような状況が生まれてくるのではないかと。これは滝川含めて田舎の構造的な問題なのかなと思いますけれども、パートではなくて正規職員が雇えるような会社、企業の育成ということをやらないと、地元への定着や、そのことによつての地元の産業の活性

化とかいろんなことが生まれてこないのではないかと思いますので、その辺どのようにこの計画を作ろうかと思っているのか給料の面についてお伺いしたいと思います。

平川課長

恐らく部会の中で給料の面までどうのこうのというお話はされていないかというふうに認識しておりますが、一方で合同企業説明会を、コロナ禍でこの2年やっていなかったのですけれども、来月、12月7日に対面で実施することになりました。私どもとしまして、広域連携の中でということになりますけれども、地元企業の紹介ですとか、実際たくさんの企業が年々集まってきております。コロナ禍でこの2年間はリモートだということで数少なかった面もありますけれども、そういったことでは我々としても、今現在も取り組んでおりますし、今後も引き続きやっていくことでこういったことは解決というか、改善されていくのかというふうに現時点では考えております。

委員長
副議長

他に質疑ございますか。

では、1点だけ確認させてください。商店街に関する部分でございます。現状と課題の中にもありますし、全部にあります。施策の方向としては、時代背景や商業環境の変化などを踏まえた商店街づくりに取り組む。10年間の計画なので、時代背景と商業環境の変化というのもしっかり分かっているのだと思うのですけれども、こんな書きぶりでもいいのかということです。26ページも見ただきたいと思いますが、コンパクトな都市形成の中に、かつて商業機能により栄えていたエリアは、高齢化や社会情勢の変化により云々と書かれておりまして、新たな都市機能の形成やにぎわいの創出が必要であると書いてあります。これは、コンパクトなところにも必要なのだけれども、力強い産業の創出の商業の部分にはとても必要な話なのではないかなというふうに思います。現状のものを何とかしてにぎわいを創出するということは多分不可能だと私は中活の頃から思っています。

具体的に何らかのにぎわい創出機能というか、装置をまず置くことが重要で、それに寄り添う商業施設というか、商業機能が張りついていくような新たな取組をやらないと、一般論で言っていますが、仕入れも難しい、後継者もない、みんな高齢化していつてPRもしにくい、そんなような状況で大変苦しんで瀬戸際にいるような人たちをもう一度復活させるというのは私たちの力では無理なのだろうと思うので、新たにそういうことを考えていく段階に既に来ていると思うので、新たな都市機能の形成やにぎわいの創出ということが大事だと思います。商業機能により栄えていたということは、たくさんの商業者が集まって集積をしていたので魅力があったのだけれども、歯抜けになってほんの少ししかないと集客能力はありませんので、そういうことは夢見るものではないので、できれば26ページのものを24ページにも記載して、そのような書きぶりにしていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

平川課長

本間副議長がおっしゃられたとおり、我々としても難しい課題だというふうに捉えていまして、起爆剤という言い方が正しいのかどうか分かりませんが、そういった意味でにぎわいの創出は必要なだろうと。本間副議長がおっしゃられたとおり、にぎわいが創出されればそれについてくるお店なんかも出てくるのではないかなというふうに理解しました。24ページの書きぶりにつきましては、本間副議長がおっしゃられたようなことをしっかり結びつくような方法で検討したいと思いますが、24ページの書きぶりは、我々としてもど

委員長
副委員長

うしていこうかということでの悩みをこういう形で表現するのが精いっぱいだったというところが正直なところでした。

他に質疑ございますか。

将来の人手不足、人材不足に対して地元定着へとかということがうたわれているのですけれども、これは違うというか、不十分ではないかと思うところがあって、子供の数を見るとこの30年ぐらいで半減していると思うのです。となると、その子供たちが全員地元へ残ったとしても全然人手が足りないのではないかな。今ある商店街についても、先々半分のものしか売れなくなるから半分は要らなくなる。大型店についても半減してもいいような状態になってしまうとか、工場についても人がいなくなってしまうので、スマート農業ならぬスマート工業、人がいなくてもできるようなものにするか、あるいは集約化していかないと商業も工場も成り立っていかなくなるのではないかと思うのです。ですから、それへの対応というか、商工会と連携して企業の集約、それについて市がサポートするとか、そういうことも考えていかなければいけない時代になるのではないかと思うのですが、その辺について見えないので、どう考えているのか伺いたいと思います。

堀之内次長

企業の集約という表現がいいかどうかは別としても、企業活動を我々がこうします、ああしますというのは相当に難しい話ではないかと思います。確かに人手不足で、工場が進展していくには工場をオートメーション化していくだとかということについても、工場を経営される方の投資、それから一定の技術開発もまた民間事業者で行っていただいているのではないかと考えています。そういう意味で、計画上、例えば支援だとか、そういう民間企業に対する視点を盛り込むというのは難しいと思っています。

総合計画とは別に、先ほども係長が言っていますが、実行計画といいまして予算に連動するようになっていくと思うのですが、そういった部分で意見集約を行って、どういうものが滝川の企業にとっていいのかというのは、我々としては当然耳を傾けていかなければならないですし、そういった部分でのお互いの考え方を整理していくというようなことはできるかもしれませんが、この場所でそこを具体的に書くというのは今は難しいのかと思っています。もちろん担当部署にはそういった意見があったけれどもということはお伝えして検証はしますが、なかなか難しいレベルの話だったというのが今の考え方です。

副委員長

表現が適切ではなかったかもしれないのですが、農業でいけば担い手を育成するとか新規就農とかやっているとか、街なかについてもこの間の市民会議の中で売れているのにやめる店があるというお話があったのですが、後継者がいない、後継ぎがないというところに対して誰か引き継がないかみたいな情報共有とか、やっていけばいいのですけれども、今やられていないのであればそういうことを考えていってもいいのかなと思うのですが、その辺についてはどうでしょうか。

堀之内次長

後継者のマッチングというようなイメージだと思います。その対応をしているかどうかは確認してみないと今お答えできないものですから、一旦保留させてください。

委員長
三上

他に質疑ございますか。

先ほども質疑しましたが、施策の方向ということで商店街づくりに取り組むと書いていますよね。先ほど本間副議長が言われていたと思うのですが、商店街

に引きつけるマグネット機能が今全然ないですよ。それをどのようにつくっていくのかということです。スマイルビルもあのままの状態では全然魅力ないです。例えば専門店の集積、1業種1店というような形で1年間家賃を補助しますよと、そういうような大胆な取組で、地元の方でもチャレンジする方はいいのですけれども、若い人たちがチャレンジできるような取組というのにも必要なかなと思ったりもするのです。ぜひそういった観点で盛り込んでいただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

平川課長

これまでも委員ご承知のとおり、チャレンジショップとかいろいろやってきていますし、それをもっと大胆にというか、大がかりにということだと思います。盛り込む、盛り込まないというのではなくて、その辺の視点も含めてということなので、その辺につきましては所管のほうとも検討していきたいと思います。他に質疑ございますか。

委員 長
荒 木

副議長のおっしゃったことと三上委員のおっしゃったことと関連するので申し上げたいのですが、空き店舗対策で昔からご苦労されていると思うのですけれども、一番の問題は、躯体が使えないのです。建物としての機能がないので、そのことは地権者の問題なので市がどうのこうのという話では実はないのですけれども、以前から申し上げているのは、若い人が借りたいと。そのときに、躯体が最低限のものでないものは市の補助対象から外すとか、もし貸したいのだったら最低限のことは地権者が補修するというような、そういう枠組みをつくらないと、申し訳ないけれども、借りられないです。今の空き店舗の状況ではほとんどです。ちょっと細かいですが、今までの補助金の体制を根本から見直すみたいなことをご検討いただければと思うのですが、いかがでしょうか。

平川課長

先ほどのお話も含めまして、できる、できないはあると思いますけれども、所管のほうと検討したいと思います。

委員 長
佐々木

他にございますか。
皆さんの質疑を聞いていて分からなくなったので教えてほしいのですけれども、時代背景や商業環境の変化などを踏まえた商店街づくりに取り組むという、この1行は、駅前の商店街をこれからは何とかする方向でやっていくということなのか、それとも時代背景や商業環境の変化などを踏まえて別の場所に商店街ができるのか、市としてはどちらなのか教えてください。

平川課長

ここで申し上げているのは、駅前だけに特化しているものではないという書きぶりで書いているつもりです。ですので、場所によっては商業環境の変化などを踏まえて商店街づくりに取り組むということですから、もしかすればマイナスといいますか、縮める部分もあったりだとか、今ほど各委員の皆さんからあったようなご意見、既に躯体としてももたないとか、そういったところを無理くり商店街づくりを推進していくというようなことではないということでの記載になっています。

委員 長

他に質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員 長

なければ、それでは25ページ、施策3についての質疑に移りたいと思います。質疑ありますか。

佐々木

市民会議の中で観光の拠点丸加高原について何点か出ていて、市の施策の方向のところには道の駅とか温泉施設を核としたというふうになっていますが、

丸加高原のところが一切出てきていない。市としては丸加高原は観光のスポットとしては考えていないということですか。

平川課長 誤解があると申し訳ないですけれども、伝習館も使えない状態になっていて、市の方針としては伝習館は現時点で活用しないということになっているものの、既存で松尾ジンギスカンの放牧とかそういったこともやられているので、景観上でのスポット的には今あるものを維持していくというような格好で考えていますので、全くという意味合いではありませんけれども、伝習館を何とか維持してやっていこうという方向性はございません。

佐々木 伝習館の建物を核としてということではないのですが、景観だったり、キャンプ場がどうだとか、市民会議の意見もあると思いますが、そういうところは残して取り組もうというふうに考えているのですか。

平川課長 市民会議では丸加高原のキャンプ場の復活みたいなお話もありましたが、キャンプ場については閉鎖ということで決定をしております。丸加高原は市のほうでは手をつけないという形になっています。一方で、読んでいただけると分かるとおり、市民会議の中でも、今ある手つかずの自然ではないですけれども、そういった形で残していくべきというようなご意見もございました。

委員長 他に質疑ございますか。

三上 ここでは観光のことも入っているのでお話ししたいのですけれども、観光協会というのがありますよね。確かに観光協会の皆さんは一生懸命頑張られているのですけれども、観光DMOという言葉が数年前までであったのですが、ここには一切出てこないのです。観光DMO、地域連携のDMOとか地域DMOとか広域連携のDMOとか3つほどあるのですが、民間的な要素を持ちながら観光協会もされているのかもしれませんが、何とかこの地域に外客誘致を図っていくという取組を今後続けていかないと滝川の魅力発信にはつながっていかないと思うのです。そういった部分で観光DMOが抜けているということをまずお聞きしたいのと、先ほど来ありますけれども、丸加高原というのは滝川以外の方からするとすごい魅力的な地域らしいのです。昨日の市長の報告会でもそういう話が出ておりましたけれども、丸加高原、それとリバーサイド、ふれあいの里、ここ的一大開発と言ったら大げさでお金かけてしまうのですけれども、今あるものを利用しながらさらに充実させていくというような取組をしていかないと、滝川の観光というのはグライダー、あるいは丸加高原、キャンプとか、アウトドアのスポーツみたいな部分を打ち出していけるようなことももっと必要なのだと思うのですが、いかがでしょうか。

堀之内次長 確定した話ではないかもしれませんが。私も財政のときにちょっと聞いたのですけれども、DMO、たしか砂川とかが広域でやりましょうということでやっていて、あの協議会はたしか解散したのでは……そうですよね。解散して、DMOの精神といいますか、考え方は残していきつつも協議体での活動は終えていくと。端的に言うと、なかなか難しかったのだろうというふうに私としては受け止めています。ですので、DMOについてはそういった経過もあって載せていないということ。ただ、先ほど言ったように、精神的な考え方の1つにはあるのだろうというふうに思っています。

それから、丸加高原、リバーサイドということで、丸加については先ほど申し上げたとおりで、手を入れるような状況にはなりづらくなってきていますが、観光客の受入れとか、いわゆる観光協会を核としてしっかりと体制を取ってい

委員 長
安 樂

ってほしいというような要望も含めてだと思しますので、考え方にはありますが、実際に行っていく実行段階でもしっかりそういったことをやっていくべきだというのは我々も思っているところです。

他に質疑ございますか。

今の三上委員の質疑に連携するのですが、次長が言っていたのですが、観光協会との連携ということが実際の計画、これの下計画には出てくるという認識でいいのですよね。私もこれを見ていて、全く観光協会との連携とか他団体との連携という言葉が施策の方向の中に出てきていないので、どうなのかなというのは疑問に思っていたのですけれども。

それと、私も同じ考えなのですけれども、丸加高原というのは、札幌で勤務していたときも滝川の丸加高原というのは結構みんな、キャンプ場もあったせいか言葉を知っていて、あそこはすごい景色がいいのだとかそういうのも聞いておりましたので、そういうのも活用すべきだというふうに思います。江部乙丘陵は全体的に絵になるところがたくさんあるので、その辺のところは、再度確認しますけれども、下位計画の中には反映されるということではよろしいか。

平川課長

25ページの書きぶりとして、施設の連携とはありますけれども、関係機関との連携ですとかがない、この辺は所管のほうとどういう書きぶりにしたらいいかということは検討したいと思えますし、再度の確認ということで、先ほど次長から答弁ございましたとおり、そんなに多額のお金をかけてということはございませんけれども、今ある自然なり景観を生かしながらということでは引き続きやっていくということで認識をしております。

委員 長
副 議 長

他に質疑ございますか。

1点だけお伺いします。施策の方向の真ん中に観光資源の1つである旬な食材などを使い、その時々合った観光プログラムを確立すると書いてありますけれども、なぜ食材なのだろうか。昼飯とか料理とか、そういうもののほうがインパクトが強いのではないかと。あるときチャップ井でブレイクした高田屋の前には、夏になったらバイクがいっぱい止まっています。そういうこともあるんですよ。それは仕掛けたわけではなくてテレビに取材されたのもあると思うし、それからネットで拡散されたりして3点台後半ぐらいの点数がついていたりするので、そんなことが実は最もみんなが食べ物に引きつけられるということがあるので、そういうことも書き加えないと駄目なのではないかなというふうに思うのだけれども、いかがお考えでしょうか。

熊谷係長

そのような資源といいますか、魅力についても書き加えるような方向で考えたいと思います。

副 議 長

書き加えるのと同時に、そういうことをどうやって拡散するのだとか、どういう仕掛けをするのだということが実は重要だと思うのです。さっき誰かが言っていたのと似た話なのですけれども、札幌のうちの娘が働いている職場の人でパネトーネのパンはおいしいんだってねとすごく言うてくる人がいて、私知らないしみたいな感じだったのだけれども、意外とそういうふうに滝川の魅力というのはほかの人たちが確認していることがいろいろあるので、インターネットはもちろんのことだけれども、どんなふうに発信するのかということもできれば記載されたらいいのではないかなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

堀之内次長

施策の方向の中では観光、マスメディアやSNSなどということで、自然の云々

というところもありますけれども、それが結びつくような書きぶりは必要かというふうに思っています。あと、現状観光のところにいるうちの職員がツイッターとかSNSを活用して、お店の紹介とかも撮影して頑張っているということも聞いておりますので、そういった活動を通じながらいくということで、先ほども言ったとおり、市のいろんな施策はPRが大事だというふうに思っていますので、書きぶりは連携できるようにしていきたいと思っています。

委員長

他に質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員長
荒 木

それでは次、26ページ、機能的な生活基盤の充実したまちの施策1の……中身と関係なくて申し訳ないのですが、もうそろそろ扉を一回開けるか空気の入替えをしていただいたほうがいいのではないのでしょうか。

委員長

休憩しますか。

(はいの声あり)

委員長

11時まで休憩します。それでは、暫時休憩します。

休 憩 10:55

再 開 11:00

委員長

それでは、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

26ページから質疑を賜りますけれども、質疑、答弁ともに簡潔にお願いします。それでは、施策1について質疑を受けます。質疑ございますか。

山 本

私、江部乙に住んでいるから言うわけではないのですが、江部乙、東滝川含めて将来のコンパクトなイメージというのは、市民は滝川の中心部に全部固めてしまうのではないかというようなイメージに持ってしまいがちなところもあって、既存の集落的な元の江部乙町、江部乙の町、東滝川の町、小さいながらもそこはそこで機能的に残しながら、だんだんと広がるのをなるべく小さなところにまとめて効率のいいという意味合いがどうも市民にしっかり見えないような気がするのですが、その辺どのような説明の仕方をしていくのか教えてください。

平川課長

ここに特段記載はございませんが、山本委員おっしゃるとおり、江部乙、東滝川の市街地につきましてはコミュニティー拠点というような位置づけで立地適正化計画のほうでも絵を描いています。ですので、そこそのエリアの中でぎゅっと縮めていく。3つを1つにするとかということでの考え方ではございません。ただ、そういった書きぶりには今なっていません。我々の思いとしては市内一円、どこがという書きぶりには今回していないという状況になっています。江部乙を取り立てて、東滝川を取り立ててという書き方は、総合計画の現段階ではしてございません。

委員長
佐々木

他に質疑ございますか。

見たときに違和感があったのが施策の方向というところなのですが、ほかの項目は2個とか3個とか、多いところはもっとあるのですが、ここだけ1つというのは、これ以上表現しようがないということなのか、これで十分という感じなのか、内容がどうのというより違和感を感じるのですが、どうでしょう。

平川課長

ご指摘のとおり、確かにほかのと比べて1つということで書いています。コンパクトな都市形成のほうは、下部計画になります立地適正化計画のほうで現在策定作業を進めております。大きくまとめられた1つの文章になっているとい

うのはそういう理由なのですけれども、皆さんからもうちょっと区分するなり違う視点なりということであれば、その辺は市民会議並びに特別委員会からもご指摘いただければと思います。

三 上

コンパクト・プラス・ネットワークの都市づくりというのがよく分かりません。どういうイメージなのか説明していただけますか。

平川課長

コンパクトの部分はよろしいでしょうか。先ほど山本委員からお話ありましたとおり、江部乙、東滝川もそうですけれども滝川全域に点在しているものを、市街地の拠点をある程度縮めていきながら、それをネットワーク、公共交通機関ですとかそういったものでしっかりつないで利便性は維持していこうという意味合いです。

(何事か言う声あり)

平川課長

ネットワークというのは、居住しているところから都市機能の地域もそうですけれども、コミュニティー拠点として江部乙と東滝川から市街地のほうに来る足というか、ネットワークというのは公共機関ですとか来る手段をきちっと確保していくという意味合いです。

委員長

ほかに質疑ございますか。

副議長

先ほどの佐々木委員の発言に関連しますが、現状と課題が3つあって、目指す姿はやや関連している感じがするので、ここまではそんなに言いたいことはないのだけれども、3つあったら3つに対してどのような対策を打つのかというのが施策の方向だと思うので、それについてはきちっと書いてほしいというふうに思いますので、いかがでしょうか。

平川課長

今ご指摘もございましたので、我々としてもその方向で再度検討してまいりたいと考えています。

三 上

現状と課題のところでは都市機能の集約化を図る中で居住を緩やかに誘導する必要があると書いていますよね。立地適正化計画ではどのような表現になっているのですか。コンパクトシティを築くためにどのように誘導を図っていくということになっているのか。

平川課長

詳細につきましては今ご答弁できませんけれども、書きぶりとしては同じイメージで統一しています。ここに住んだら駄目だよとか、そういった規制ということにはなり得ないというふうに今のところ認識しております。ですから、緩やかにという格好になろうかと。そのために今後どういった施策をやっていくのかというのは具体的にこうだ、ああだというのはないのです。ずれてしまいますけれども、先ほどのネットワークの部分で最低限必要な移動手段については確保していこうよとか、そういったことも1つになるのかというふうに思っています。

堀之内次長

補足なのですが、立地適正化計画では、居住誘導区域であったり都市機能誘導区域であったりという設定を一定程度国の指針なんかになぞらえてやっていくということで、居住誘導区域を設定したからそこにしか住めませんという意味ではないというのが今の答弁の補足です。区域は設定されるというふうには聞いております。そういった示しをしながら、30年後、40年後に人口が2万人、1万数千人と言われているものに対応していくためには、年次によっていろいろ情勢に応じて変化はしますけれども、今つくって、将来的に目指す姿としてはコンパクトなまちづくりをしていかないといけないという、そういった大きな考え方となります。ですので、施策の方向も大きくくくりました。最初の段

階ではもう少し細かい話もあったのですけれども、ここに書いてある人口減少、少子化、誰もが持続的かつ安全、安心、かなりぼわっと広げた言い分になっております。長い期間をかけて徐々にというような意味合いもあって大きくしたのですが、それは戻って、先ほど副議長からもありましたように検証しますが、そういったところも含まれているということで押さえていただければと思います。

委員長
副委員長

他に質疑ございますか。

今の話から続くのですが、居住を緩やかに誘導するという場合、若い人であれば街なかに家を建てればそれでいいかと思うのですが、高齢者の方というのは今さら新しい家を建てるわけにいかないの、公営住宅なり民間のアパートを借りるということで、そういうところへ誘導すればいいと思うのですが、そのときに一番気になるのは後始末の問題だと思うのです。家については解体すればそれで済むかと思うのですが、土地については残したままになってしまうので、そこが解決しないと引っ越すに引っ越せないということも出てくるのではないかと思います。土地とかその辺については市で何か考えているのかということと、空き地になってしまえばいいのですけれども、それまでの道路とか上下水道の撤去とか、その辺の後始末はどう考えているのか、その辺についても考えていかなければいけないと思うのですが、お考えを伺いたいと思います。空き家ですとか土地の関係等については、所管は今のところらし支援課になるのですが、確認しているわけではないのですけれども、具体的にどうする、ああするというのは、まだそういうレベルにはないというふうに思っています。ですが、先ほど来、立地適正化計画で緩やかに誘導していくということになりますと当然、それにまつわる誘導策なんかも今後考えて、施策として展開していくことになると思いますので、今ほどありました上下水道の撤去ですとかそういったものも含めて今後、市として大きな課題だと思っておりますので、実行計画なり各種それぞれの施策の中で展開していくべき事項かなというふうに思っています。

平川課長

委員長

他に質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員長
三 上

次、27ページ、施策2の質疑を受けます。質疑ありますか。

公共交通の維持ということで、人口減少が進むにつれて利用者が減っていくと思うのです。民間業者ですから、経営が成り立たなければ撤退するということも出てくると思うので、どんどん高齢化になっていくというののもあって、コミュニティバスというのがありますでしょう。運営する側は急激に収入がなくなったら困るので、今公共バス、公共交通を担っていただいている会社でいいのですけれども、コミュニティバスを市単独で用意して運行委託するみたいな取組も将来的には必要だと思うのです。その辺は全然盛り込まれていないので、どのような考えを持っているのか伺いたいなと思っております。

平川課長

ご指摘のとおり、考え方としては私たちもそういうふうに考えています。コミュニティバスとかデマンド交通とか具体的な言葉はないのですけれども、言い訳になってしまうかもしれませんが、「目指す姿のそれぞれの生活スタイルに合わせた交通手段を選択し」というようなところで包含しているというふうに我々としては考えて記載をしております。ご指摘のとおり、コロナ禍ということもあって事業者も相当厳しいということで、日々相談といたしますか、協議を

進めています。我々としては費用対効果を考えまして、これぐらいの予算で最大限の効果を生むということで、現時点ではまだ路線バスが走っていただいているので何とかやっていきますけれども、近い将来といいますか、今後、委員ご指摘のとおり、どうなっていくか分からないとなった場合にはバスのダウンサイジングとかコミュニティーバス辺り、決められたルートを走れないぐらいになってしまえば、今後はデマンド交通だとか乗合タクシーだとかそういったことも視野に入れて考えていく必要があると我々としても、まだ漠然としていますけれども、そういったことは考えています。

委員 長
副 議 長

他に質疑ございますか。

今のデマンド交通だとか小さいバスだとかそういう話については、今後については幾つかの選択肢が各地でやられているので、それに倣って行くことしか選択肢はないのだろうと想像していますけれども、ここでそれを表現することによる中央バスに対する影響というのを考えて書かなかったということはないのでしょうか。

平川課長

公共交通全体の話になっているので、特段路線バスだけとかという視点ではないので、中央バスに気を使っているということでは考えていません。そういう視点ではないです。

副 議 長

公共交通の中の市内線のバスとかというのはかなりの割合を占めている分野だと思うのでかなり重要だと思うのですが、仮にさっき言ったようなデマンド交通だとかいろんなことを今後考えていますよみたいなことをここでばんと出してしまったら、ああ、そうですかと中央バスは言わないのかな。大丈夫ですか。今ご指摘のあることはもしかして可能性としてはあるかもしれないので、そのような書きぶりになるのであれば、事前に調整はしようかなというふうに思います。

委員 長

他に質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員 長

それでは次、28ページ、施策3について質疑を受けます。
質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員 長

それでは、29ページ、施策4、住環境の整備について質疑を受けます。質疑ありますか。

安 楽

住環境の整備ということで、廃校の有効活用だとか、そういう関係のものというのはどこかに含まれているのかなというのが質疑なのですけれども。それと、一番最後の既存住宅の耐震化や、良質な住宅の整備の促進に向けた取組、これは積極的に推進すべきだと思うので、積極的という言葉が入っているのではないのかというふうに思います。いかがでしょうか。

堀之内次長

廃校の関係なのですが、個別施設計画では廃校などは売却ですとか有効活用ですとか、いろんな考え方を持って今後検討していくということで以前説明させていただいたつもりでいました。そこに入っているのですが、具体的に廃校だけというよりは公共施設全般のほうになるので、28ページで公共施設全般のことも触れていますが、そういった中に包含して考えていきたいというふうに思っています。廃校を利用してスポーツ合宿どうだとかそういった意見もあると思うのですが、マッチングできるような状況になれば、そこは考えていきたいというふうに思っています。

平川課長 積極的なという言葉をとということです、その辺につきましては検討させていただきます。

委員 長 他に質疑ございますか。

三 上 施策の方向の部分で、空き家の有効活用や危険性回避に向けた必要な取組を官民連携で推進しますと出ています。官民連携、いろいろあるかと思うのですが、具体的にはどういうことをイメージしているのか伺います。

熊谷係長 既に流通されているものは、もちろん不動産業者さんで取り扱っていたりします。今後危険空き家にならないために行政として取組を進めていったときに不動産業者との連携ですとか、ネットを見ますとゼロ円不動産といって、価値のないような物件でも取り扱ってくれる事業者とかありますので、そういった事業者との連携なんかも視野に入れた書きぶりになっております。

三 上 倉庫の活用とかトランクルームの活用とか、そういった部分も含めて危険空き家を回避するという取組が必要かなと思うので、ぜひ考えていただきたいと思いますがどうでしょうか。

平川課長 含めて検討します。

委員 長 他に質疑ございますか。

荒 木 計画上、空き家を活用するか、あるいは建て替えを促すというような方向なのですが、2050年だったか60年だったか分かりませんが、ある推計では、東京も含めた全国の3軒に1軒が空き家になるという推計があります。どれぐらい信用できるものか分かりませんが、恐らく地方都市ではもっと早く進んで、下手すると2軒に1軒ぐらいが空き家になるという状況が来るのだと思います。そのときに基本的に建て替えだとか、そういう補助が適切なのかという問題があって、最終的に大量に発生して行政代執行というお金を考えたときに計算が必要なのですが、壊す補助、そういうことも計画の中に盛り込んだほうがいいのかというふうに思うのですけれども、どうでしょうか。

平川課長 荒木委員ご指摘のとおり、我々内部としても、今はたまたまコロナの臨時交付金を活用して新築助成とか改修をやっていますけれども、空き家対策の1つとして解体の補助とか、担当レベルですけれども、議論の中ではそういった案を出し合っている最中です。ですが、総合計画に壊す補助をにおわすようないうか、分かるような記載については今後検討させていただきます。どちらかという実行計画のほうで施策としてやっていくことのように今の段階では考えていますが、今のご指摘を受けまして、書きぶりについては検討させていただきます。

委員 長 他に質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員 長 それでは、所管からの報告事項について、(1)、滝川市総合計画（原案）については報告済みといたします。

2 その他について

委員 長 次、その他について、委員の皆さんから何かございますか。

副 議 長 今後の進め方ということについてなのですけれども、意見徴収して、市民会議とかこの委員会の意見を反映した内容のものが作られていくのだろうと思うのですけれども、それに対する委員会というのは行わなくていいのかというふうに思っているのですけれども、予定としてはどういうふうに考えているのか。

委員 長 次の市民会議の日程がまだ決まっています。ですから、次の当委員会の日程もまだ決まりませんが、最終的には修正したものをいただいて、委員会

でもう一度見ていきたいというふうに思っています。そういう進め方でよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

3 次回委員会の日程について

委員長 それでは、次回委員会の日程については正副委員長にご一任願いたいと思います。よろしいですか。

(異議なしの声あり)

委員長 以上をもちまして第3回滝川市総合計画調査等特別委員会を閉会いたします。

閉 会 11:24

第3回 滝川市総合計画調査等特別委員会

日 時 令和4年11月2日（水）

午前10時00分

場 所 第二・第三委員会室

○ 開 会

○ 委員長挨拶（委員動静）

1 所管からの報告事項について

《総務部》

（1）滝川市総合計画（原案）について

（資料）企画課

2 その他について

3 次回委員会の日程について

○ 閉 会

令和4年10月27日

滝川市議会議長 関 藤 龍 也 様

滝川市長 前 田 康 吉

滝川市総合計画調査等特別委員会への説明員の出席について

令和4年10月24日付け滝議第86号にて通知がありました第3回滝川市総合計画調査等特別委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしくお願いします。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合がありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしくお願いします。

記

滝川市長の委任を受けた者

総務部次長

総務部企画課長

~~総務部企画課長補佐~~

総務部企画課係長

堀之内 孝 則

平 川 泰 之

~~鎌 塚 誠~~

熊 谷 純 一

(総務部総務課法制文書係)